

店

画数 8
筆順 テン
オン
クン
みせ

成り立ち

↓店 ↓店 ↓店 ↓店 ↓店

じゆうに出入りできるようにつくられた家のかたちをあらわした「店」と、おみせの「かざりだな」のかたちをあらわした「占(点)」とをくみあわせた字で、「みせ(商店)」をあらわした字です。

「占(テンは訛り)は「占める」意味の字。「一定の場所を占めて商う「店」という意味の会意・形声字である。しかし、二年生では理解しにくいし、たまたま「占」が店の飾り棚の形をしているので、棚と見た。」

使い方

▽商店街をとると、いろいろなお店がならんでいます。ぼくは、おもちゃやお店が、いちばん好きです。いつもとは、ケーキのお店のまえへいくと、いつも立ちどまって、ながめています。

▽「ちよっと、かいものにつてくるから、お店のばんをしてちようだい」と、おかあさんにいわれました。わたしのいえは、やおやをしています。店ばんするのは、さいしよは、ちよっとしんばいでしたけれど、いまではすつかりなれました。

熟語例

▽商店(しなものを商っているお店。「商店街」といえば、商店がたくさんならんでいる通りのことです。)

▽店員(商店ではたらいっている人。)

▽開店(お店を開くこと。「お店の戸を開く」いみと、「新しくお店をはじめ」いみとあります。)

▽書店(書物をうるお店。「本やさん」の、ちよっとあらたまったいいかたです。)

点

画数 9
筆順 ト 占 点
オン
クン
テン

成り立ち

↓点 ↓点 ↓点 ↓点 ↓点

「占領」「占拠」など「ばしよを占める」といういみの「占(訛るとテンになる)」と「...」とをくみあわせてつくった字です。「あるばしよをしめすためにつけた...」「じるし」のことをあらわしたものです。「小さな...」「じるし」のことです。

「しるしを「つける」「といういみにもつかわれ、そのため、「火をつける」「でんとうを「つける」というばあいにもつかわれます。」

「もとの字は「點」で、「黒」と「占」との会意・形声字であり、点はこの略字である。」

使い方

▽文のおわりにつける。じるしを句点、文のちゆううにある、を讀点といいます。

▽東海道新幹線は東京えきが起点で、大阪えきが終点です。

熟語例

▽句点(文のおわりにつけるしるし。)

▽読点(文を讀みやすくするために、文のちゆううにつける点のしるしなので「読点」といいます。)

▽起点(この点は「場所」「所」といういみ。起は「はじまる」「いみ。ものごとがはじまる所。鉄道では「列車のしゅっぱつ点」のことです。)

▽終点(ものごとのおわる所。てつどうでは、列車がさいごにとまる所のえきのことです。)

▽同点(点数が同じこと。)

▽点数(点の数。得点の数。)

▽得点(得は「手に入れる」こと。「とった点」とった点数)

▽点火(火をつけること。)

▽点灯(電灯をつけること。)